仁和寺院家跡（花園宮ノ上町遺跡）

発掘調査現地説明会資料

２００１年4月１４日

財団法人京都市埋蔵文化財研究所

仁和寺院家跡（花園宮ノ上町遺跡）

場　　所　京都市右京区花園土堂町10
調査期間　2001年２月19日から現在継続中
調査面積　約1200㎡
調査主体　(財)京都市埋蔵文化財研究所

はじめに

名勝・雙ケ岡と妙心寺に挟まれた調査地周辺は、花園宮ノ上町遺跡にあたっています。花園宮ノ上町遺跡は平安時代から室町時代にわたる遺跡と考えられており、調査地周辺で実施した広域下水道工事に伴う立会調査では、古墳時代から江戸時代にかけての土器や瓦などの遺物が出土しています。1985年に調査地南側の双ヶ丘中学校校内で実施した発掘調査では室町時代の大型甕が見つかりました。

調査地の東側には西京極大路を隔てて平安京があり、北側には仁和寺、南側には歌枕として知られる双　池がありました。平安時代中期から鎌倉時代にかけては、仁和寺に付属する多数の院家（皇族や貴族が建てた付属寺院）が双ヶ丘周辺に建立されました。著名な院家には四円寺（円融寺・円教寺・円乗寺・円宗寺）や法金剛院があり、調査地付近には我覚寺（池上寺）・浄光院・宝塔院などの院家があったと推定されています。しかし、これらの院家に関する記録は限られていて、いつの頃か廃絶し、江戸時代になると調査地周辺は池上村の耕地となっていました。池上の地名は双池にちなんだものですが、この頃には双池は埋め立てられていたようです。

発見した遺構

調査では、調査地各所に11か所の調査区を設定しました。その結果、地表下約10～90cmの深さで平安時代から鎌倉時代の遺跡が良好な状態で残っていることが明らかとなりました。主な遺構を次に紹介します。

建物　調査地北側の１区で見つかりました。四方を雨落溝で囲まれており、規模は雨落溝の中心間で東西は約17.7mあり、南北は約23.0mに復元できます。また、東側の中央は約5.0mの幅で約2.5m東側に張り出します。張り出しの両側には礎石の抜き取り穴が残っています。この部分には向拝と呼ばれる庇があり階段が取り付いていたと考えられます。雨落溝は建物の軒先から落ちる雨水を受けるための溝で、河原石を組み合わせて作っています。石が抜き取られたくぼみも目立ちますが、両側に細長い石を２列ずつ並べ、東側で

は底に平たい石を１列敷いています。雨落溝に囲まれた内側はやや高まりとなっており、地山を削り出して亀腹（饅頭形の土壇）を作っていたことが分かります。南側の一部のは盛土も行っていました。しかし、床張りの縁を支える礎石の据え付け跡が数基残っていた以外は、建物本体の礎石の据え付け跡などの痕跡は発見できませんでした。おそらく後世に削り取られたためと考えられます。これらの痕跡からこの建物は、南北約20m・東西約15mの規模で、母屋が柱間２間・桁行３間の四面に庇が付く東向き南北棟建物であったと推定できます。

区画溝　調査地西側の２区・３区・５区で見つかりました。方位は北側で西に振る方向をとっています。規模は幅約１m・深さ約80cmで、長さは70m以上に及びます。調査地全体を横切っており、土地を区画する溝と考えられます。

その他の遺構　建物・区画溝のほか、各調査区で柱穴・溝などが見つかっています。これらの多くは建物が廃絶した後に作られたものです。耕作に関わる遺構と考えています。

出土した遺物

遺物には土器と瓦があります。土器は土師器と呼ぶ素焼きの皿が最も多く、他に黒く燻した瓦器・釉薬をかけた灰釉陶器・中国製の磁器などがあります。瓦には丸瓦・平瓦・軒丸瓦・軒平瓦があります。軒丸瓦には蓮華文、軒平瓦には唐草文が飾られています。遺物の時期は遺構による違いはありますが、平安時代後期から鎌倉時代のものがたくさん出土しています。

まとめ

仁和寺の各院家の沿革を記した『仁和寺諸院家記』という書物には、約百か所近くの院家の記録が載せられています。これまでに発掘調査で建物が発見された仁和寺の院家には南院・大聖院・法金剛院などがあります。『仁和寺諸院家記』には双ヶ丘の東、双池の北（池上）には「浄光院」があったことが記されています。今回の調査で発見した建物は浄光院にあった「千手堂」に当たると考えられます。東側が正面となり、参拝する人は西に向かって仏像を拝んでいました。建物の規模に比べて出土した瓦の量が少ないので、檜皮葺の屋根の棟の部分にだけ瓦を飾っていたと想像できます。また、雨落溝は白河・鳥羽離宮・蓮華王院などで発掘された平安時代後期から鎌倉時代の寺院と同じ作り方が取られています。

今回の調査では、仁和寺の院家で初めて建物の全容を明らかにすることができました。また、区画溝は周辺の土地利用を考える重要な手がかりとなりました。さらにその他の柱穴や溝から寺院が廃絶した後の土地利用の移り変わりも明らかにすることができました。

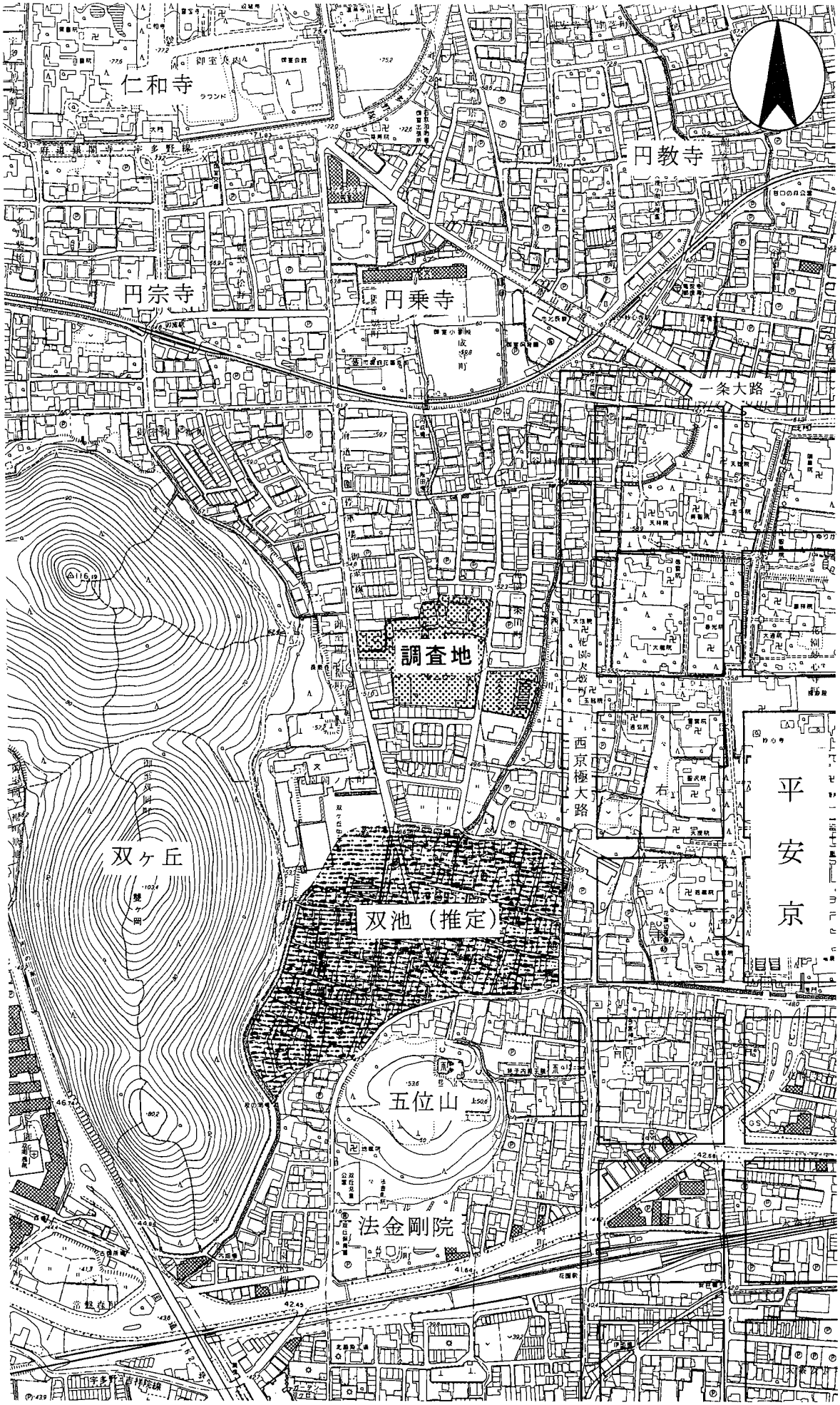

図１　調査地周辺図（１：5,000）

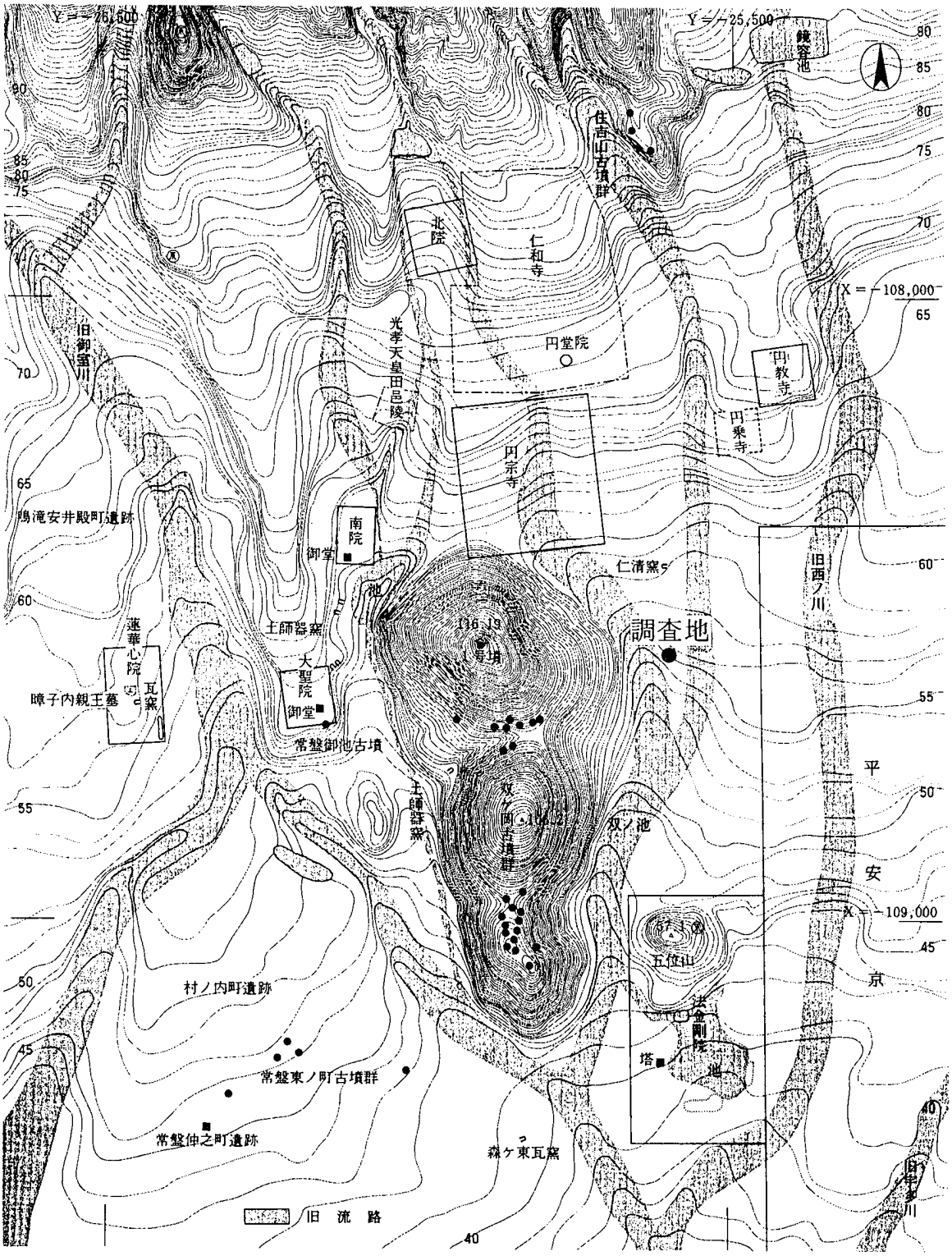

図２　双ヶ丘地域の旧地形と遺跡位置図（１：10,000）

（『京都嵯峨野の遺跡』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1997年　※一部訂正）

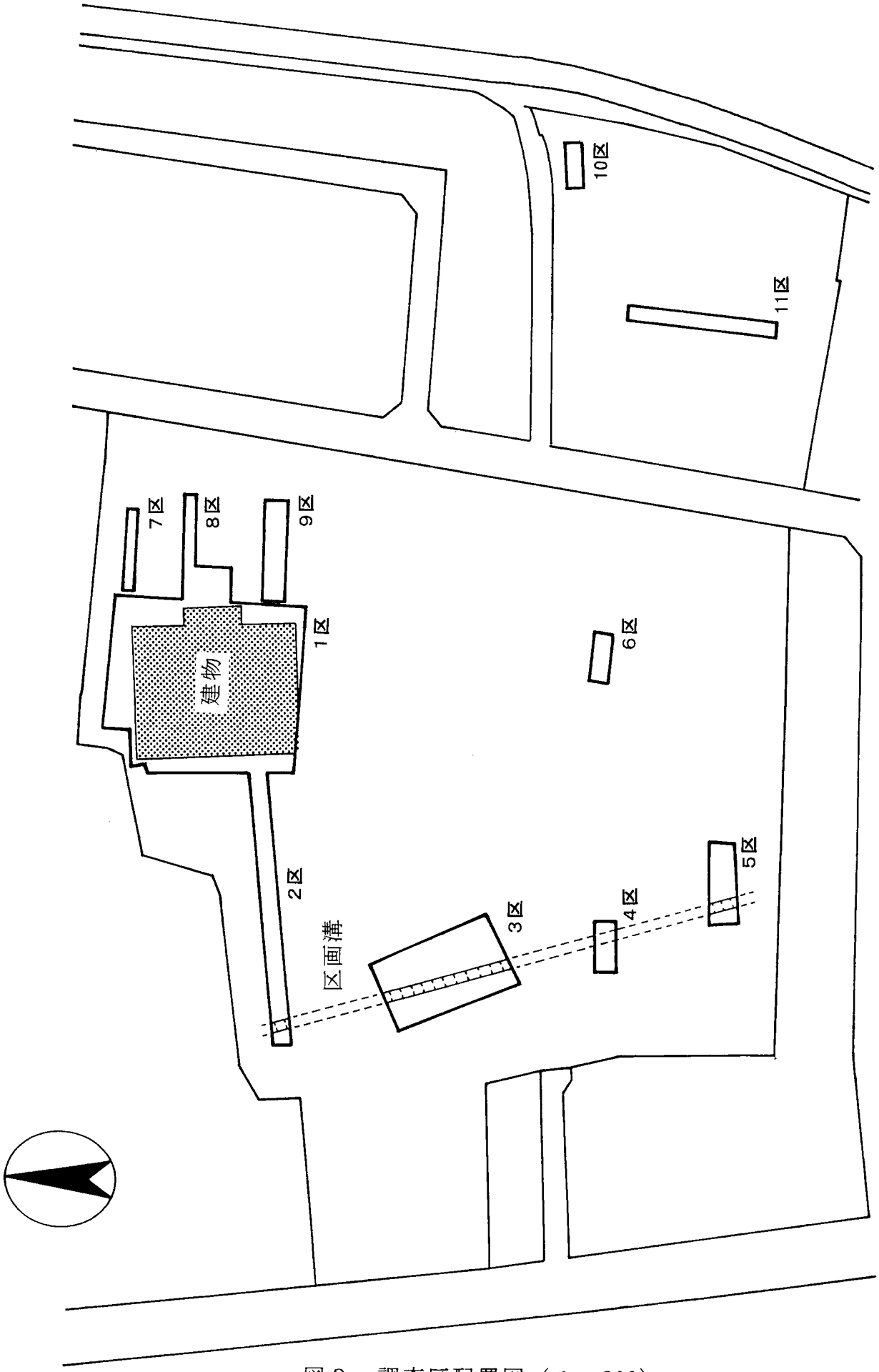

図３　調査区配置図（１：800）

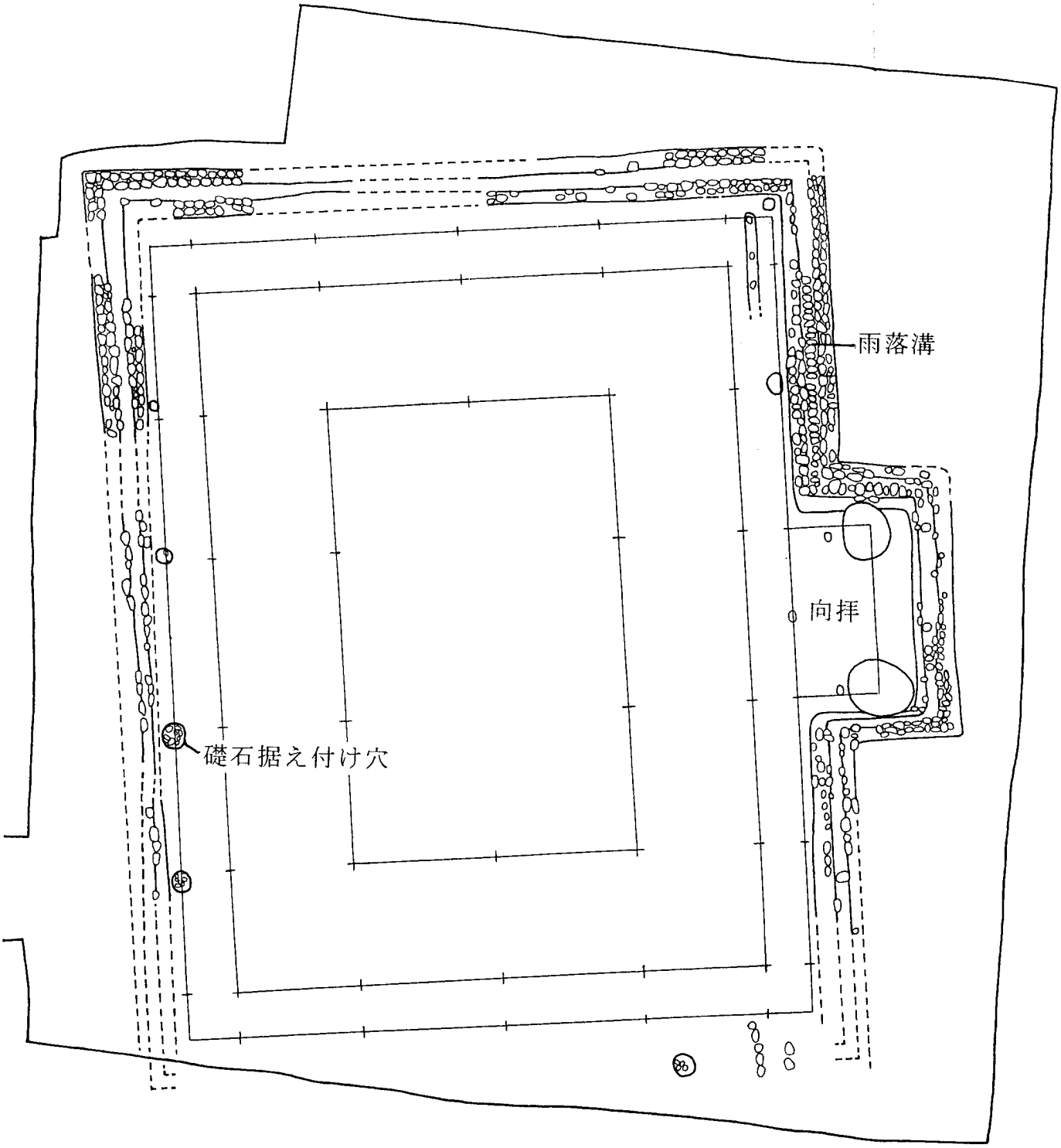

図４　１区建物復元案（１：150）

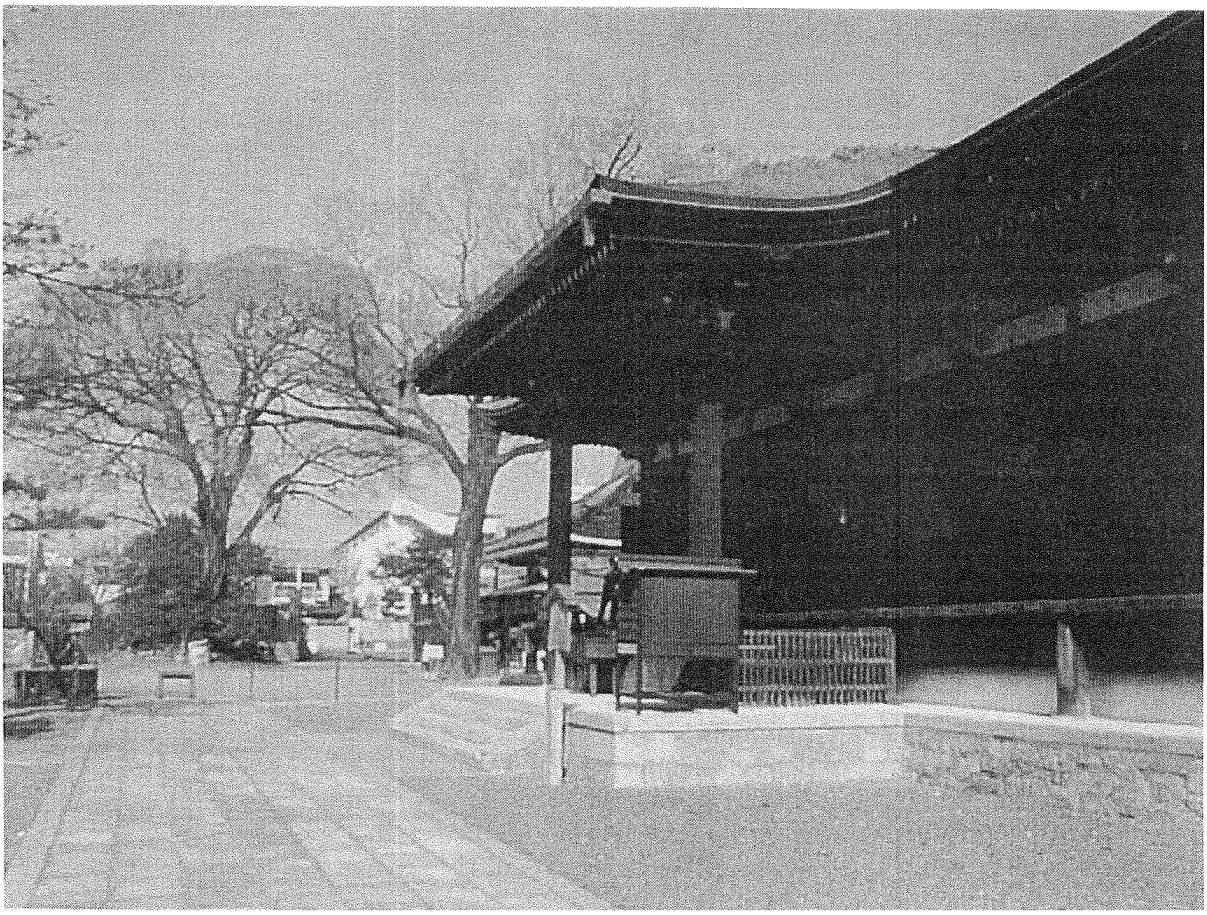

図５　千本釈迦堂本堂の向拝

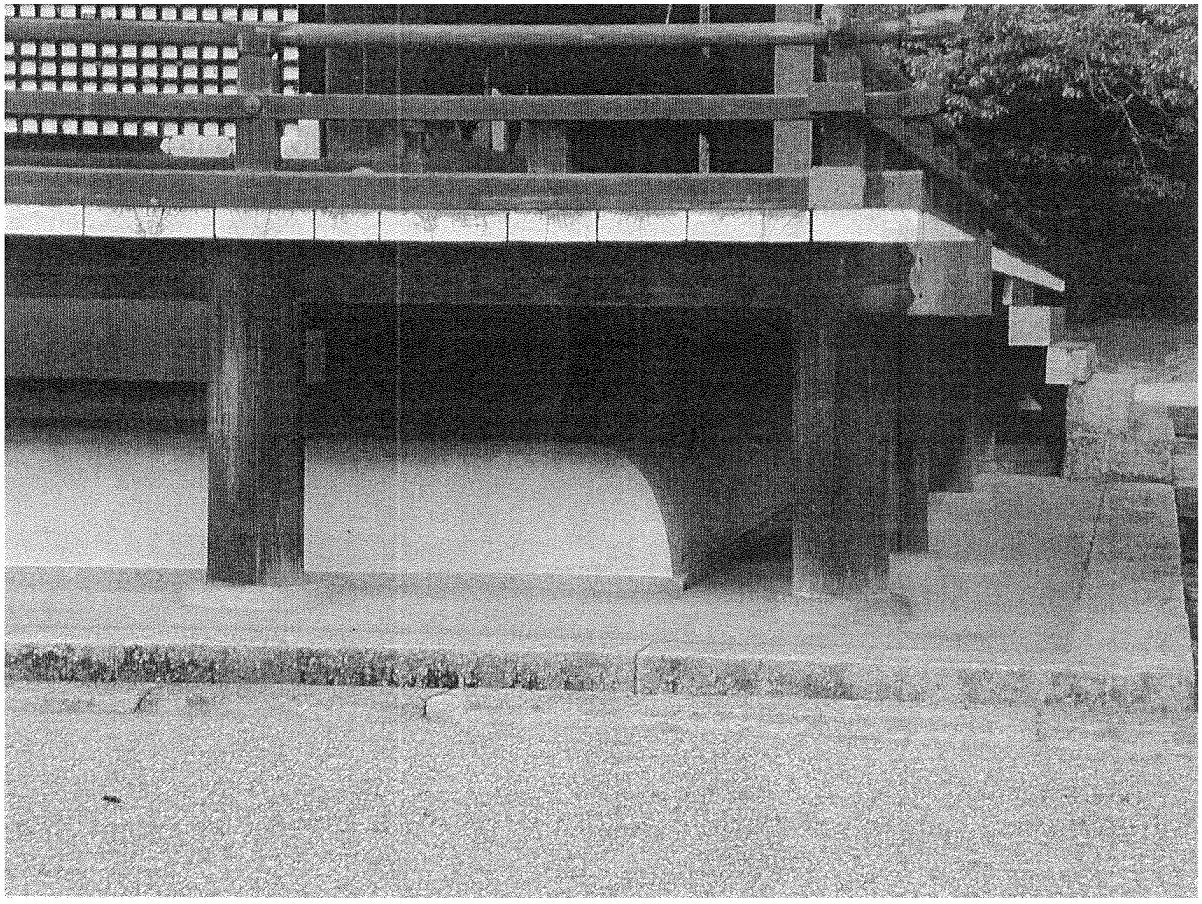

図６　仁和寺金堂の亀腹

関　係　年　表

時代		出来事	関連事項
古墳時代		双ヶ丘古墳群・五位山古墳の造営	
飛鳥時代		太秦・広隆寺創建	
奈良時代			
平安時代	延暦13年（794）	平安京遷都	長岡京遷都（784）
	仁和４年（888）	宇多天皇が仁和寺を創建	大覚寺建立（876）
	昌泰２年（899）	仁和寺・円堂院（八角堂）建立	
		この頃仁和寺・寛忠僧都が我覚寺（池上寺）を建立	
			内裏焼失（960） 内裏再建（961）
	永観元年（983）	円融天皇が円融寺を建立	
	長徳４年（998）	一条天皇が円教寺を建立	
	寛仁２年（1018）	円教寺焼失	藤原道長が摂政（1016）
	長元７年（1034）	円教寺再建	
	天喜３年（1055）	後朱雀天皇が円乗寺を建立	平等院鳳凰堂建立（1053）
	延久２年（1070）	後三条天皇が円宗寺（円明寺）を建立	
	永保３年（1083）	聡子内親王が大教院を建立	
		この頃仁和寺・頼尊律師が**浄光院**を建立	院政開始（1086）
	長治２年（1105）	円乗寺焼失	
	元永２年（1119）	仁和寺焼失	
	大治５年（1130）	待賢門院璋子が法金剛院を建立	
	保延元年（1135）	仁和寺再建	
			平氏滅亡（1185）
鎌倉時代		吉田兼好が『徒然草』を執筆	建武の新政（1333） この頃妙心寺創建
室町時代	応安２年（1369）	円宗寺倒壊	
	応仁２年（1468）	応仁の乱により仁和寺焼失	応仁の乱（1467～1477）
		この頃『仁和寺諸院家記』が残される	
桃山時代			本能寺の変（1582） 関ヶ原の戦い（1600）
江戸時代	正保３年（1646）	仁和寺再建	
		野々村仁清が御室に窯を開く この頃には双池が埋められる	
			明治維新（1867）
明治以降		松竹映画撮影所	
		立石電気社地	